

目的意識×問題発見・解決型能力を育成する これからの推薦・AO入試指導

この稿が出る頃には、志望理由書などの出願書類を提出し終えた高校3年生もいることでしょう。書類審査を中心とした一次試験の結果を待っているときのいてもたってもいられない気持ちはよくわかります。しかし、このときこそ、一次試験を通った後の面接やプレゼンテーションの準備をしなければなりません。今回は二次試験や実地試験で課せられる面接について解説します。

藤岡慎二

株式会社GGC
代表取締役

第3回

面接担当者の意図を知って 準備したい面接・プレゼン



ふじおか・しんじ ●1975年生まれ
慶應義塾大学大学院修了。数学や生物の大学受験対策を教える塾講師を経て、大学院でキャリア教育の重要性に気づき、研究を開始。小学生から社会人までを対象とした現場指導経験を有し、推薦・AO入試対策、社会人基礎力の指導や教材・プログラム開発を大手大学受験予備校や高校・大学で行う。島根県立隠岐島前高校をはじめとし、行政と協業し教育を通じた地方創生に取り組む。現在、北海道から沖縄までの高校魅力化プロジェクトに参画、高校連携型の公営塾を運営。

面接担当者は、私たちが嫌い!?

「あなたが大学でやりたいことはわかったけどさ、あなたでないとけない理由はありますか？」

「これ(志望理由)って、他の大学でも勉強できるんじゃない?うちじゃなくてもよいと思うよ」

「皆(他の受験生)、同じこと言うんだよね、どこが違うの?」

事業仕分け顔負けの圧迫質問責めに、面接担当者は自分を嫌いなのではないかと思ってしまう、涙目に――。

これは受験生から聞いた実例です。もちろん、このような面接ばかり

ではなく、和やかに面接が進む場合もありません。しかし、昨年までは和やかな面接だったはずが、今年からいきなり圧迫面接、ということも。どのような場合にも対応できるように、まずは面接とは何かを改めて理解し、対策を考えてみましょう。

本気度、熱意、人物が測られる

面接は受験生1人に対し面接担当者が複数の個別面接と、受験生が複数同時に面接する集団面接があります。多くは複数の面接担当者が1人の受験生を多角的に評価する個別面接です。

面接でのやりとりには面接担当者から受験生への質問のみの場合もあれば、面接担当者へのプレゼンテーションを義務づける場合、選択させる場合もあります。面接では志望理由などの内容だけでなく、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、論理的思考力など大学で学ぶために必要な能力が備わっているかを見たいという思惑もあるのです。

面接でされる質問内容は表1にまとめましたが主流ですが、これらの質問を通して面接担当が一番知りたいと思っているのは以下の三点だと

いえるでしょう。

① 本心に本人が志望理由や書類を書いたのか?

推薦・AO入試の書類選考は受験生本人になりすまし、他人が書類を揃えて提出しても大学側にはわかりません。よって、大学側は面接を通して、目の前にいる受験生本人が本当に書類や志望理由書を書いたのかを確認してきます。冒頭で触れたような鋭く、厳しく、突っ込んだ質問は、本人確認のためです。面接担当者は受験生に自身で考え抜いた志望理由でなければ答えられないような質問をぶつけ、試しているのです。

② 志望校と志望理由に関して熱意をもち、真剣に考え抜いてきたか?

面接担当者は、受験生の志望理由が真剣に考え抜かれたものか、志望校への想いを確認しようとしています。推薦・AO入試の一部は併願可能であり、合格しても入学しない場合が

表1 面接における質問のパターンと選考者の評価ポイント

主な質問のパターン	内容	評価ポイント／対策のヒント
① 志望理由	提出した出願書類のうち志望理由について2～3分で答えるように要求される。	きちんと自分で考えたか、どれほどの情熱や想いがあるか、受験生本人でなければ書けないことか。 ※志望理由の内容については前号vol.408参照。
② 高校時代に力を入れたこと	高校での学習、部活・委員会活動などの課外活動、そして学校外でのボランティア活動や各種のプログラム（模擬国連や〇〇甲子園など）について訊かれる。	活動においてどのような壁や課題を、どのような信念や価値観、信条に基づき、どのように行動し、どのように乗り越えたのか。受験生の個性をみる。 ※自己PRの絶好のチャンス。
③ 大学入学後の大学生活について	大学生活について、大学に合格し、入学したあとの学生生活についての質問。志望理由書に記述した学習計画や行動計画など自身の目標に添った大学生活について訊かれる。 自身の視野を広げるための留学やアルバイト、インターンシップなどについて訊かれる。	どれだけ志望大学について期待しているか、大学生活を有意義に過ごす意識と計画があるのか。 ※アルバイトも社会勉強のひとつ。大学だけでなく、留学など社会の視野を広める大学生活もPRすると良い。
④ 時事問題に関して	ニュースなどの時事問題について、その要約と受験生の意見について求められる。 訊かれる時事問題は受験生の志望理由に関係する場合とない場合がある。	時事問題やキーワードに対する理解・論点・受験生なりの意見をもっているか、言えるか。 ※自分の志望理由の分野に関する時事問題や関連するキーワードだけでなく、最近のニュースなどでよく出てくる時事問題についてもおさえておくとうまい。
⑤ 答えが1つに定まらない問い	答えがない問いについて訊かれる場合がある。例えば、社会で役に立つ力を高校で育てたいと考えている受験生に、“見えない力を評価する具体的な方法を考えて”など、質問する側ですら満足な答えをもっていない質問が投げられる場合もあり。	難しい問いに関して思考停止をせず、場合によっては面接担当者を巻き込みながら考え続ける力があるか。 ※満足な答えを出せなくても良いので、対話を通じて考える力を鍛えよう。

あるため、志望大学への本気度を見られるのです。

受験生本人の問題意識や興味あるテーマは何なのか、なぜそのテーマや問題意識に行きついたのか、問題意識やテーマの社会的意義を認識しているか、問題意識やテーマに関して、どれだけ調べているか、課題や解決策に関するアイデアはあるのか、自分たちの大学・学部でなければならぬ理由は何か、学びを将来生かしてどのような職業や立場になりたいのか……。あらゆる方向から深く志望理由について追及をします。受験生本人が真剣に、長い時間と労力をかけて志望理由を考え抜いたのであれば、答えられるであろう質問で受験生を試そうとするのです。

③ 純粋に志望理由とその人物に興味がある。

志望理由がとても考え抜かれており、斬新で創造的であったりすると、面接担当者はその志望理由に関して前向きな議論をしたい、いろいろと受験生に訊いてみたいと一次試験で合格させ、面接試験に呼びます。この場合は和やかな面接になる場合が多いようです。

また、人物像に関しても同様で魅力的だと面接担当者が判断すれば

あの手この手で試してきます。書類にある活動実績から、どのような時に（特に困難である時が多い）、どのような価値観や信念のもと、どのように考え、行動したのかという質問で受験生の行動と思考や性格を明らかにして、大学での学びに向いているか、社会で活躍しそうな人物かを確かめます。大学側は出願書類を通して受験生についての仮説を立てます。

「逆境に強いタイプなのではないか」、「対話型のリーダーシップをもっているのではないかな」などの仮説をもって面接に臨むのです。出願書類でどのような仮説をもたれるかを吟味して、面接に臨みましょう。

直前の面接対策は確認程度に

直前における対策は確認程度で良いと考えます。生徒と指導者が対話を通じて、長い時間と労力をかけて考え抜き、志望理由や自身の自己PRポイントに関して言語化できているれば、あとはシミュレーションを繰り返す程度で良いのです。前号で紹介した観点を意識しながら志望理由書が考えられていけば、面接は問題ありません。面接でPRする自身の人物像に関しても、書類と一貫した個性が伝わるようにしましょう。